

# 岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年5月31日現在

## 今月の重点活動

### ■ アスパラガス夏芽出荷に向けて立茎中！

春芽の出荷は、低温の影響から昨年よりやや遅れて3月20日からスタート。品質も良好、順調な収穫出荷が行われている。なお、単価は1,200円/kgで昨年より安値で推移している。

農業普及課では、夏芽出荷に向けて、立茎技術を重点的に普及指導しており、日々の巡回と栽培講習会等で技術向上を図っている。



【写真：立茎中のハウス】

## 主要農作物の生産振興

### ■ 水稻 (JAぎふ特別栽培米生産推進協議会栽培技術指導)

JAぎふ特別栽培米生産推進協議会では、今年岐阜、本巣、山県において特別栽培米を約133ha作付する計画となっている。5月12日に役員会がアグリパークにて開催され、農業普及課からH22に被害があったコブノメイガや縞葉枯病対策について啓発指導を行った。今年は施肥改善展示ほも設置し、収量向上を図っていく。

### ■ 麦 (タマイズミの原種・採種ほ出穂期審査終了)

4月28日、5月6日に採種、原種の出穂期審査を実施した。平年より生育は4～5日遅れているが、生育は順調。今後糊熟期審査を行い、タマイズミの種子合格を目指す。

### ■ 活力ある新産地づくり支援事業(品目名) アスパラガス 換気扇を使わない、オープンハウスの導入を支援

アスパラガスハウス長期どり栽培において、盛夏期の換気扇の騒音と電気代コストが問題になっている。そのため、農業普及課では、オープンハウスの導入により高温域を解消する効果と収量・品質に及ぼす影響について調査を行う予定にしている。栽培管理をする農家にとって、夏季の高温は熱中症等を誘発しやすく、心身ともに大きな負担となることから、オープンハウス化したビニルハウスが人体への負荷が少なく、熱中症予防に有効であるか、慣行(換気扇)より快適性が向上するか、また収量等を調査する展示試験を開始することとしている。

＜オープンハウス導入者3戸 5棟＞

### ■ えだまめ 消費者収穫体験ほ場の設置

全農・JAぎふ・えだまめ部会では、「岐阜えだまめ」消費宣伝のために、えだまめの収穫体験を計画している。農業普及課では、収穫体験展示ほ場の設置に係る支援を行っている。

4/22：施肥・畝立 5/5、10：定植・防虫ネット被覆、  
7/16：消費者収穫体験実施(予定)



【写真：収穫体験ほ場畦立の様子】

5/30GA P運営委員会が実施(枝豆、法連草、大根)され、本年度の活動計画を立てた。

## ■いちご 加工用いちごの試験

J Aぎふ及びいちご生産組織では、規格外等のいちごを有効活用するため、加工用いちごの製造を試験的に行った。今回は冷凍いちごを作るため、J Aぎふパッキングセンターのパートと青年部が集まり、いちごのヘタ取り等の下処理をした後、袋やパックなどに入れて冷凍庫へ保存した。農業普及課では今後も、岐阜市商工会議所との連携をし、加工業者（お菓子屋さん）の利用や、J A農産物直売所で販売をしていく予定となっている。



【写真：いちご加工（ヘタ取り）】

## ■だいこん 品種比較試験

品種試験 23品種（延べ58品種）の比較を行った。有望品種について6 / 3 役員会で検討する。春大根の価格低迷。祝だいこんの増産について来月検討を予定している。

## ■さといも 実証ほ試験

各務原市さといも部会において、実証ほとして「うね間を狭くした場合の増収効果及び防草効果の確認」および「密植栽培の単収確保及び肥料費低減に向けた施肥体系の検討」を設置している。4月27日の役員会にて概要を説明し、今後、J Aと連携し生育調査を行う。

## ■かき 摘らいの徹底で大玉生産！

生育は3～4月の低温の影響から平年より5日程度、遅れている状況。管内の各かき振興会と農業普及課では、4月下旬から5月上旬にかけて摘らい講会を実施し、大玉生産のための摘らいの重要性等について指導した。着らい数は平年より少ないが、作業の進捗はやや遅れており、5月末まで続く。また、栽培初心者や女性部、定年婦農者等の栽培レベルを向上させるための講習会も各地で開催して技術向上を図っている。

## ■花き 生育障害等について現地対応を実施

管内の花き生産者ほ場（5品目）において発生した障害症状を現地確認し、検鏡等を実施した。農業経営課（岐阜駐在）とも連携し、生産者へ情報提供を行った。

## 担い手の育成・確保

### ■女性農業経営アドバイザー 今年度の活動開始

岐阜地域食生活改善協議会リーダーとの産消交流を6月21日に計画をしている。交流会の内容について、4月25日と5月6日に事務局と協議を行い素案をまとめた。また、小学校5年生を対象とした食農交流会を平成24年1月に計画しており、本巣市土貴野小との打ち合わせを4月27日に行い、学校のカリキュラムに組み込んでいただくこととなった。農業普及課では、生き生きと活動できるよう指導、支援を実施する。

### ■集落営農組織・営農組合 (園芸品目の取り組み広がる)

桑原土地営農組合（羽島市）では、今年から園芸品目の栽培に取り組むことになった。5月7日に農業普及課が作業体系、収支等を説明し、J Aぎふ、営農組合員と検討した結果、えだまめとはくさい（加工用）の栽培に取り組むことになった。えだまめに関しては、市内では既に小藪、東方の両営農組合が取り組んでおり、出荷が重ならないように播種時期を調整して栽培が行われる予定となっている。